

尊厳を守り、介助者にやさしい排泄ケア

社会福祉法人生活クラブ(池田徹理事長)の介護施設では排泄ケアに欠かせないツールとなっているのが「FUNレストテーブル」。前傾になった高齢者の上半身を「画」で支えるテーブル型の手すりだ。重度の人でもトイレでの排泄を可能にする上に、介助者一人でも安全に移乗することができる。メーカーの高島屋スペースクリエイティブによると、一度使った施設からのリピートや、口コミでの広がりでもコンスタントに売り上げを伸ばしているという。人材不足が加速する中で、改めて注目したい製品だ。



島田施設長

在宅サービスの複合施設「生活クラブ風の村いなげ」は2011年の開設でグループの中では比較的新しい施設だ。新築にあたっては、サービ

ス付き高齢者向け住宅、ショートステイの個室、通所介護の共用のトイレ、脱衣所など必要と考えられる場所全てに「FUNレストテーブル」を設置した。「自宅ではおむつでも、これがあるからここでトイレに行くことができる。FUNレストテーブルがない介護は考えられません(秋山さん)。

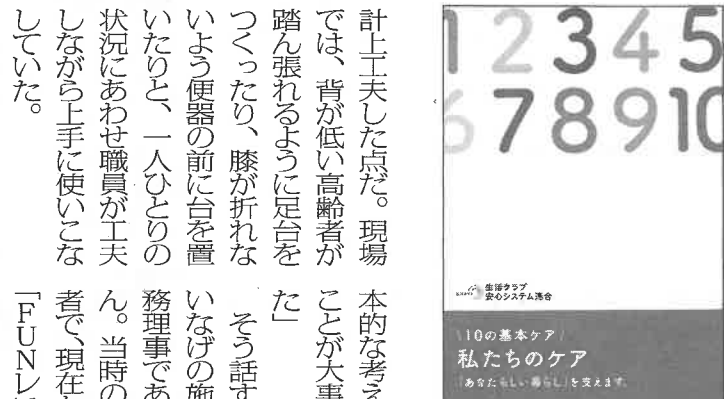


FUNレストテーブルの使い方を説明する秋山さん(上)脱衣所にも設置してある



テーブル型の手すり 全個室のトイレに設置

生活クラブ風の村いなげ



生活クラブグループの「10の基本ケア」の中で必須アイテムとして紹介されている

驚く。

2人介助の時に、前で支える介助者の役割を担うのが、テーブル。高齢者がテーブルに両肘を付き前傾になり、腰が浮くタイミングで後ろからひょいっとお尻を持ち上げて立たせる。ボディメカニクスを踏まえた介助法で腰への負担も少ない。狭い個室用トイレで後ろからの介助のスペースを確保するために、扉を引き戸にしているのは設計上工夫した点だ。現場では、背が低い高齢者が踏ん張れるように足台をつくったり、膝が折れないように便器の前に台を置いたり、一人ひとりの状況にあわせ職員が工夫しながら上手に使いこなしていた。「FUNレストテーブル」は、人間生理学に基づいた介護の技術を提唱している上野規氏の指導で高島屋スペースクリエイティブが製品化したものだ。すでに2002年にはパイロット版を完成させており、20年近い歴史がある。風の村での導入は上野氏に、介護技術の指導を依頼したのがきっかけだ。当時、第一棟目の「特養ホーム八街」で重度化が進み、理念だけでは立ちゆかなくなっていたことが背景にある。「技術だけでなく、基